ほっとほっとタイムズ－第6号－

2023.9.21

井荻小学校　特別支援教育校内委員

長かった夏休みも終わり、子供たちが学校に返ってきました。40日の間、子供たちは、どんな経験を積んできたのでしょうか。

私も感じること、考えることがたくさんありました。まずは、保健だよりでもご紹介した学校保健委員会でのことです。保健的な面は保健だよりに譲ることとして、私が気になったのは子育ての面でのことです。お医者さんの一人が最近気になることとして、「中学生になっても、自分の症状を自分で言わず、ついてきた母親が全部代弁することがある」と話されたことでした。ちょっとびっくりです。母親の立場で考えると、「自分もやってしまいそう」という気もしますが、先を考えると「中学生にもなれば、自分のことは自分できちんと伝えられなければこの先困るでしょう」と思います（小学校でも、保健室に来た時は自分の口で症状を話してほしいです）。そのあと、小学校時代に身につけさせたい力って何だろうという方向に話は進みました。

次はある高校教師の話です。高3になると、文系、理系に進路を決めなければならなくなる。そのとき、教師から見て、どう見ても文系だろうと思う子が、親が勧めるからと理系を選択してくる。親は本人を見て言っているのではなく、「自分たちが理系だから、理系でなければこれから先就職口はない」と決めてかかっているらしいというのです。子供も自分の思いを言えないのかもしれません。これから先、苦労するだろうなあと言っていました。

どちらも、わが子を心配するからこその親の行動です。しかし、本当に子供のためになっているのでしょうか。主体者である子供がどこかに行っていて、親の感覚だけで物事が進んでいる気がします。

9月2日、今、大学生や社会人になっている子供たちがたくさん、本校にやってきてくれました。1月に杉並区で行われる予定の「水鳥の棲む水辺創出事業シンポジウム」に向けて、これまで井荻小学校で続けてきた善福寺川の学習をどのように子供たちが感じているか話し合うためです。そこでも、貴重な言葉をたくさん聞きました。子供たちが、語ってくれた言葉をいくつか紹介します。

・放課後の清掃活動は、「やらされている」人はいなかった。何事も自分事として物事を捉えるようになったことのきっかけだったかもしれない。とにかく楽しかったのは、強制された活動ではなかったからだと思う。

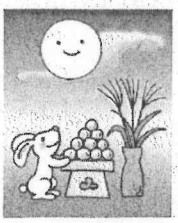
・「清掃活動は楽しい」という印象があり、加えて地域環境のためにもなると気付けたことが参加し続けられた要因かと思う。発表の時、言葉を覚えて発表したら、先生に褒められたことを今でもよく覚えている。

・自らチャレンジする気持ちは、今の生活でも、努力する気持ちにつながっている。

・清掃活動や調べ活動をして、なぜだろうという課題を持つこと学んだ。この経験が、今の好奇心につながっていると感じている。

・自分たちで調べて、考えて、その意見を同級生と共有して・・という作業を早くから経験できたことで、物事を考えるプロセスのようなものを得られた気がして、その後の人生において、人前で発表するときにどのように行うべきか考えるときに役立っていると感じている。年齢を重ねると、「答え」や「普通」というものにとらわれがちだが、善福寺川の活動は、アイデアを出すところから始まり、そのアイデアには正解も不正解もないため、自由に意見を交わすことができた。そうした経験が、今の時代に役立っていると感じている。

小学校の経験や学びがその後の人生で役立っているといわれると、教師としてこんなにうれしいことはないのですが、子供たちの声を聞いていると、子供たちの力になっているのは、「自分から進んで一自主性」「答えのないものを」「仲間とともに」「努力したこと（経験）」なのだと思います。



子供たちは、失敗しながら学ぶのです。子供時代に、失敗してもいい自分から動くことをたくさん経験させてやりたい。それを大人たちは大きな目で見守ってやれる、そんな世の中であればいいなあと思っています。